

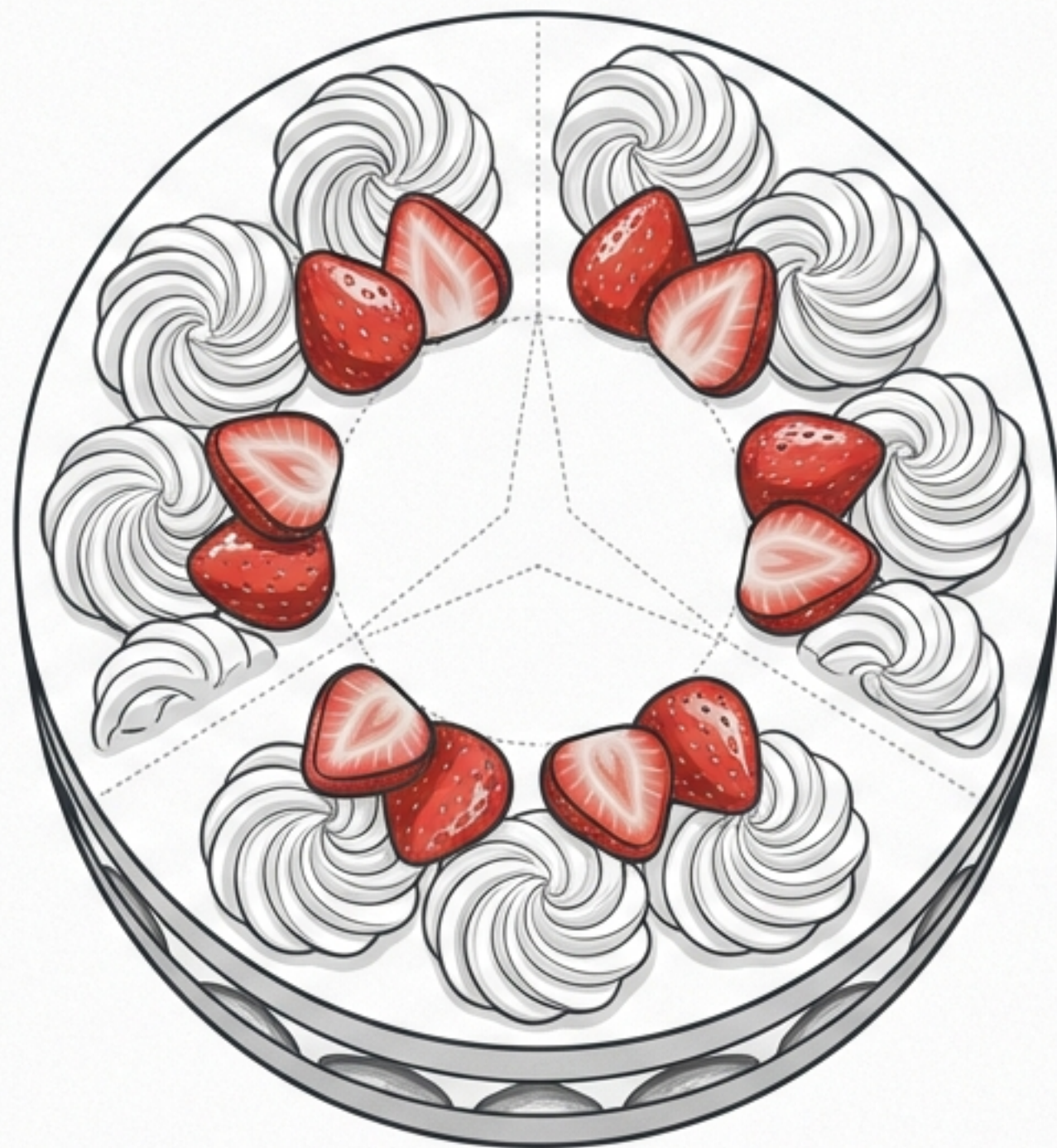


ベストセラー『ケーキの切れない非行少年たち』が暴く、見えない格差の正体

「反省」以前の子どもたち。

彼らはふざけているわけではない。
「反省」すらできない理由が、そこにはある。
教育と支援のあり方を根底から覆す、衝撃のレポート。

質問:「この丸いケーキを3人で公平に分けてください」



あなたなら、どう切りますか？

おそらく、中心から「ベンツのマーク」のように3等分するでしょう。

私たち大人にとって、それは造作もない「当たり前」のことです。

しかし…

これが、少年院にいる少年の 「切り方」です。



ふざけているわけではありません。
反抗しているのでもありません。
彼らは本気で悩み、本気でこのよ
うに切ったのです。

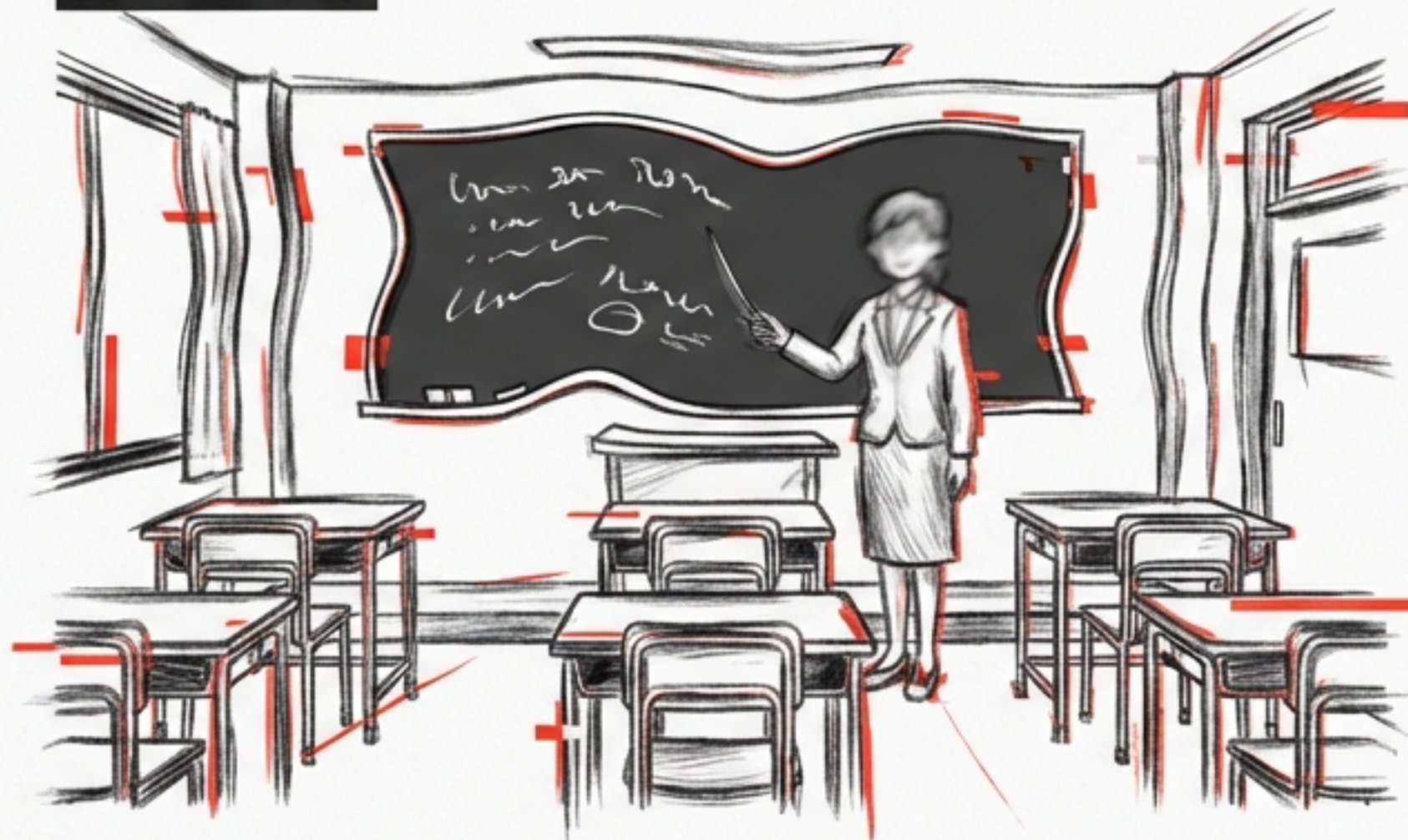
もし世界が「このように見えている」
としたら、あなたはどうしますか？

衝撃の事実：「世界が物理的に歪んで見えている」

私たちが見る世界



彼らが見る世界



凶悪犯罪に手を染めた少年たちの多くが抱える共通点。
それは「**認知機能（見る・聞く・想像する力）**」の弱さです。
見る力が弱いから、相手の表情を読み間違える。
聞く力が弱いから、指示を理解できずトラブルになる。
彼らにとって、この社会は「歪んだ鏡」のようなものなのです。

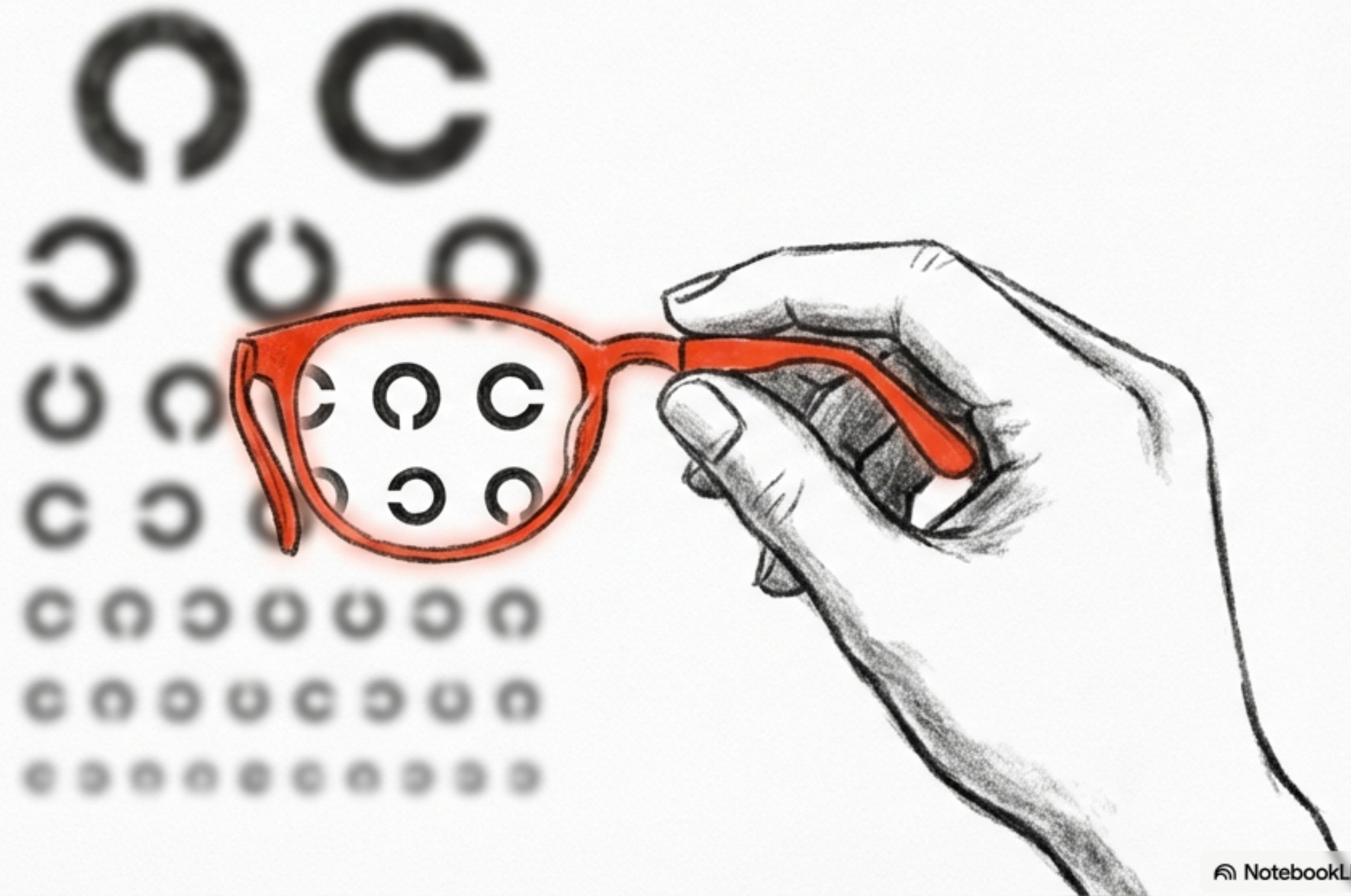
「反省しろ」は、
「裸眼で遠くの文字を読め」と同じ。

「相手の気持ちを考えろ」「もっと反省しろ」

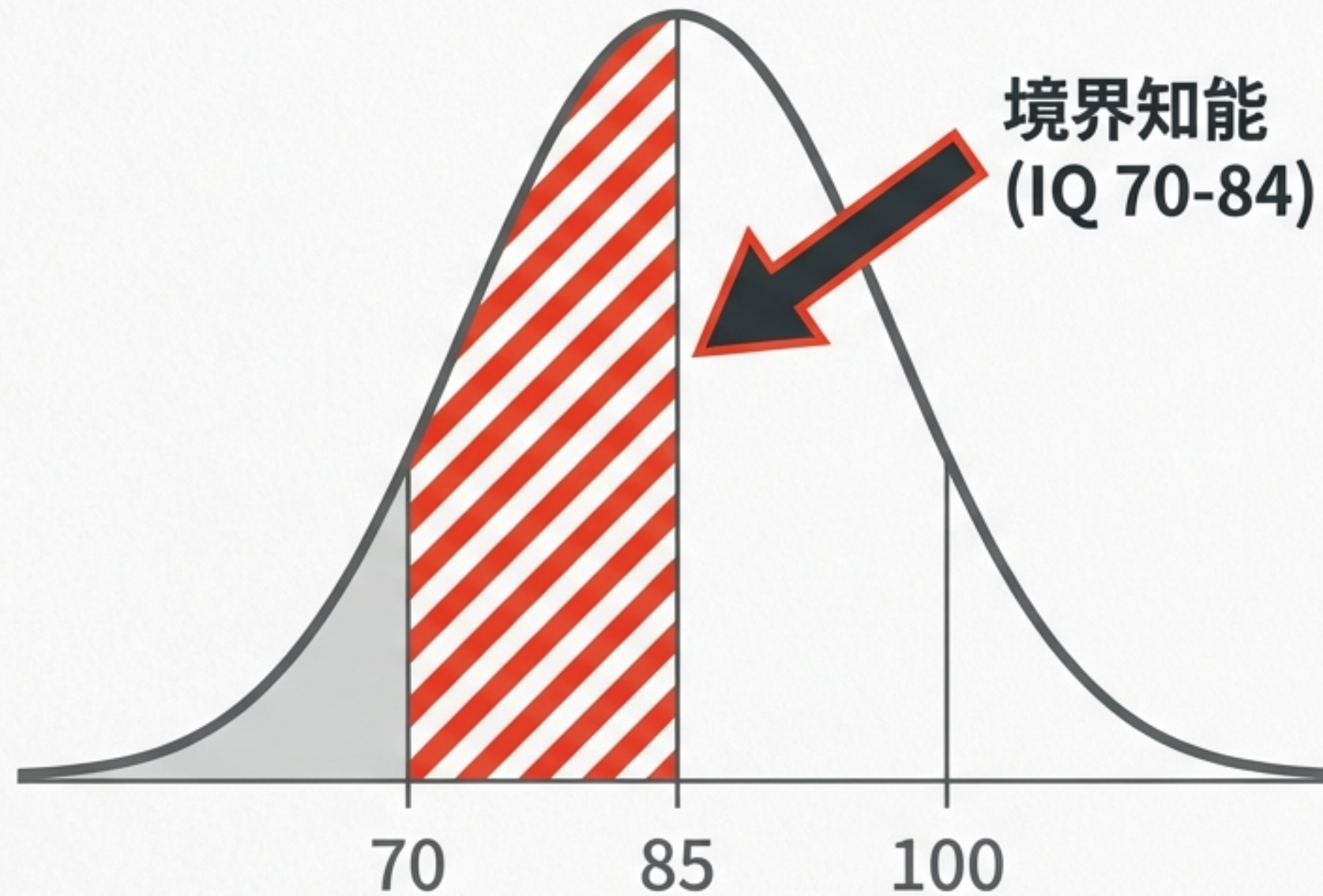
私たちはそう叱責します。しかし、
彼らにはそのための「認知の土台」が
ありません。

視力が悪い人に、眼鏡を与えずに「気合
で読め」と強要する。

それが、これまでの「矯正教育」の正体
だったとしたら？



見過ごされる「境界知能（Borderline Intelligence）」



IQ 70～84の領域。
かつては支援対象でしたが、現在は「障害ではない」とされ、支援の網から漏れています。
知的障害（IQ70未満）でもなく、平均（IQ85以上）でもない。
「普通」を求められ続け、挫折し続ける14%の人々がいます。

35人のクラスに、約5人の「見えない苦闘者」

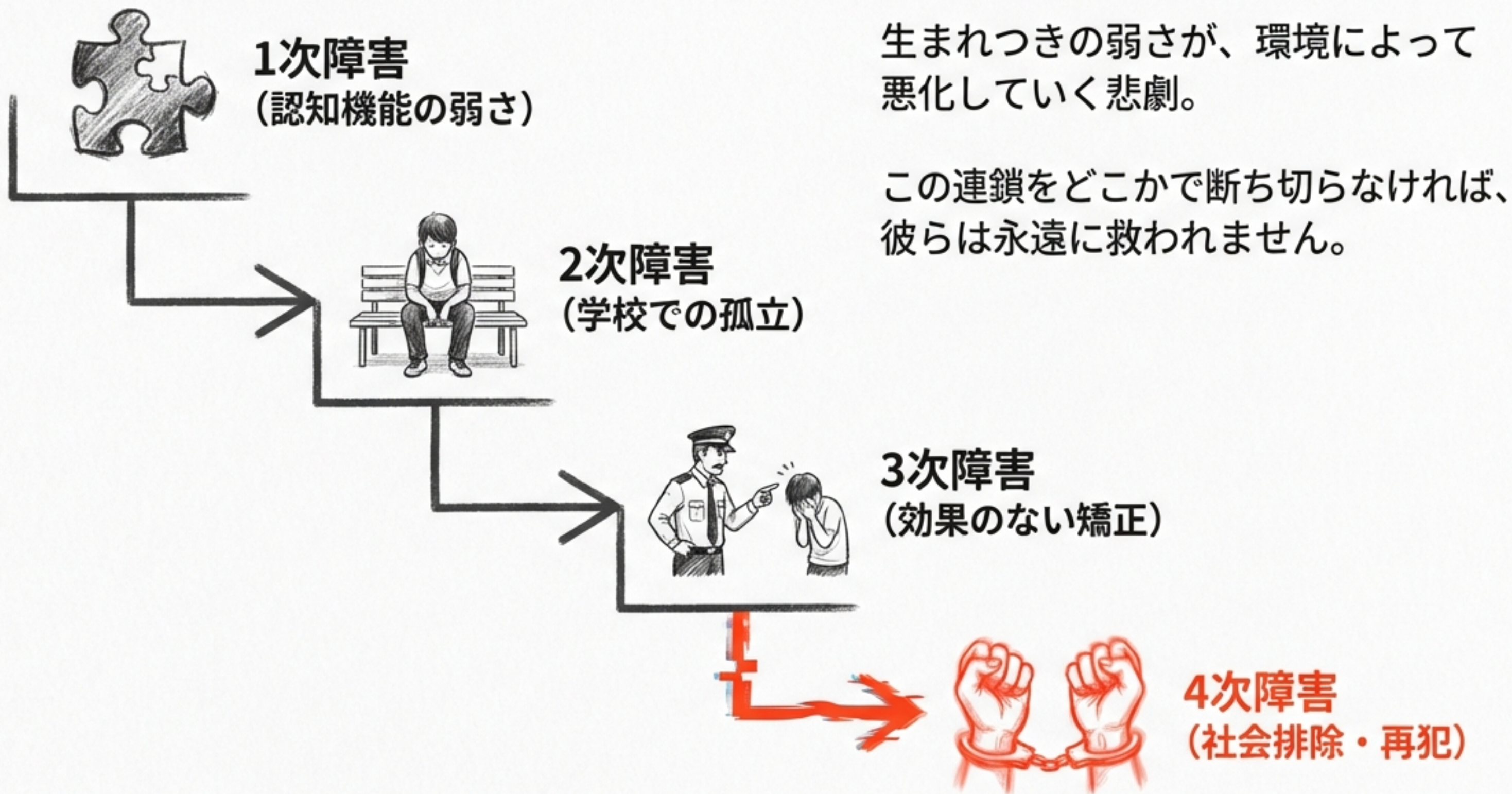


統計的に、境界知能の子どもは約14%存在します。

35人 × 0.14 ≒ 5人

どのクラスにも、下から5人程度は「やる気がない」「ふざけている」と誤解されている子がいます。彼らは通常のクラスで孤立し、自尊心を失い、やがて非行グループに居場所を求めます。

負の連鎖：「4次障害」への転落プロセス



「まじめに働きたい」のに、クビになる現実。



彼らの多くは「普通に働きたい」と願っています。

しかし、認知機能の弱さや不器用さが原因で、仕事が続きません。

「やる気」はあるのに、能力的なミスマッチで社会から弾き出される。

行き場を失った彼らが向かう先は、再びの「犯罪」です。

これは「情け」の話ではない。「税金」の話だ。

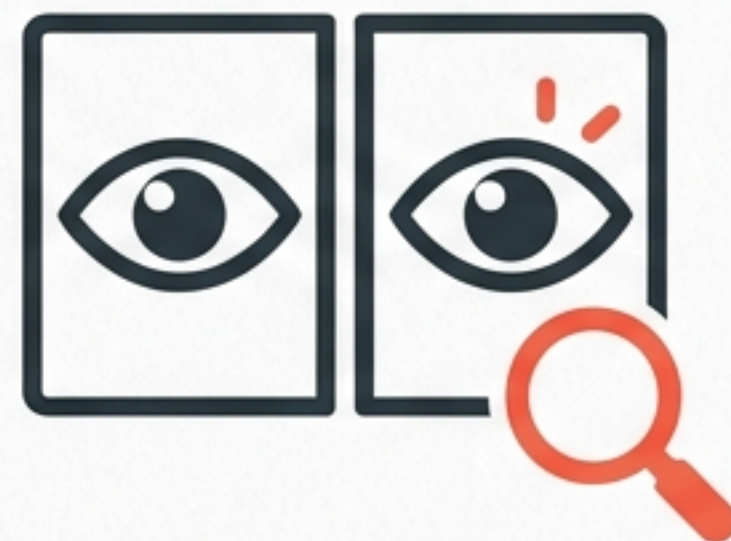


受刑者を1人養うコスト：年間 約300万円。

更生し、納税者になった場合：年間 約100万円の貢献。

「困っている子ども」への支援は、日本にとって「最強の投資」なのです。

解決策：脳の体操「コグトレ (Cognitive Training)」



必要なのは説教ではなく、トレーニングです。

認知機能の5要素（記憶・言語理解・注意・知覚・推論）をゲーム感覚で鍛える。

朝のたった5分。

これだけで、彼らの「見る力」「聞く力」は養われ、世界はクリアになります。

彼らは「**モンスター**」ではない。「**迷子**」なのだ。



ニュースで見る理解不能な事件。
私たちは犯人を「**怪物**」だと思い込みます。

しかし、実際は適切な「**コンパス**」を持たずに
荒野に放り出された、**迷子**の子どもたちです。

後先を想像する力が極端に弱いだけで、
悪意の塊ではないかもしれない。

そう想像するだけで、**救える未来**があります。

「知ること」は、「救うこと」。



あなたの周りにいる「何度言ってもわからない人」。
その人は、わざとやっているのではなく、ただ「見えていない」だけかもしれない。
「厄介な人」を「困っている人」へ。
その視点の転換こそが、誰もが生きやすい社会への第一歩です。